

■梅謙次郎 民・商法学者。日本私法学の開拓者、明治時代最大の立法家であった。

うめけんじろう

桜田門外変・1860＝ 松江藩医梅薫の次男として出雲国松江に生まれ、

神童の称あり、

明治維新・・1868＝ 8歳：

戊辰戦争終・1869＝ 9歳：

明治6年政変 1873＝13歳：

初の民間工場1875＝15歳：東京外国語学校に入ってフランス語を修め、

大久保暗殺・1878＝18歳：

・・・・・1880＝20歳：司法省法学校入学、

明治14年政変1881＝21歳：

秩父事件・・1884＝24歳：卒業。

内閣発足・・1885＝25歳：文部省より派遣されて、_ヨーロッパに留学に出、

帝国大学始・1886＝26歳：_リヨン大学に学び、

国民之友始・1887＝27歳：

帝国憲法発布1889＝29歳：*大著「和解論」を提出して、ドクトゥール=アン=ドロアの学位を得、リヨ市から金銀混成賞牌をうけ同書は学界に名声を博した。ついでベルリン大学に学び、

帝国議会始・1890＝30歳：_帰朝、帝国大学法科大学教授に任じられる。「商法義解」刊行開始、

足尾鉉毒始・1891＝31歳：_法学博士。

郡司千島探検1893＝33歳：*「商法義解」5巻完結。旧民法・旧商法修正のための法典調査会が設置されると、穂積陳重・富井政章とともに民法の、また田部芳・岡野敬次郎とともに商法の、各起草委員として両法典の成立に尽力する。

日清戦争始・1894＝34歳：

白馬会・・・1896＝36歳：_「民法要義」刊行開始、

終始帝大教授を本務としたが、一時、法制局長官などを兼任したほか、法学の普及発達のため私学経営にも力を注ぎ、

Bushidou・・1899＝39歳：_和仏法律学校校長になる。

ピアノ国産化・1900＝40歳：*「民法要義」5巻完結。1年たらず文部省総務長官に任じた。

また、梅を尊敬する中国人留学生の要望に応じ、法政速成科を開設して2千余人のこれら学生に法政教育を行なった。その教えをうけた者には董必武・江兆銘・居正・沈鈞儒・仇鶯らがある。

日比谷公園・1903＝43歳：_和仏法律学校が法政大学となり、その総理に就任。「法学志林」を創刊。「民法原理」、

日露戦争終・1905＝45歳：

満鉄発足・・1906＝46歳：帝国学士院会員。清国を漫遊、張之洞・袁世凱らと会見。清国の法律につき懇囑をうけ、これが機縁となり、清末立法事業に岡田朝太郎・松岡義正・志田卸太郎らを推薦・参画させた。_伊藤博文が韓国統監となるや、招聴されて韓国法律顧問となるが、

韓国併合・・1910＝50歳：*ソウルで腸チフスに罹り、没した。